

平成 30 年度静岡大成高等学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
① 自主性・協調性を 培い、自ら学び、 自ら考える力を伸 ばす。 (授業・HR 活 動・学校行事・部 活動・資格取得・ ボランティアなど に主体的・計画 的・協働的に取り 組む力を育む。)	基本的生活習慣を確立させ、「やるべきこと・守るべきこと」が実行できる。	責任ある社会人の育成をめざし、決められたことや約束事が実行できる姿勢を育てる。(ルールの遵守・授業時の態度・提出物の期限遵守・係り等の責任)	A	全体の秩序はおおむね守られているが、徹底にまでは至っていない。個々の対応を丁寧に行っていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、行動するスチューデントスタッフが校内で生き生きとしている。制度が浸透してきているようで頼もしい限りだ。 ・各教室にプロジェクターが設置されるとともに、校内 LAN も整備され、アクティブラーニングや ICT を活用した授業への環境が整備されている。是非、積極的に活用し、創意工夫した授業の展開を期待する。 ・部活動を止める生徒が少し出てきたとのことであるが、生徒の耐える力や自分で目標を見つける力の問題もあり先生もたいへんだが、今以上に生徒に寄り添い、生徒の個性や特色の把握が求められると思うのでよろしくお願ひしたい。 ・英検・漢検は全員受験させているとのこと、今後は、やらされている感の生徒の指導をいかにするかが課題と思う。先生の頑張りに期待する。 ・2P ノートやマナトレ等も円滑に実施されているとのことであるが、やはり先生の粘り強い指導が重要と思う。今後とも地道な努力をお願ひしたい。
	「学力の3要素」を意識し、知識・技能を育てると共に、これからの時代に求められる資質や能力の育成。	何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能) 知っていること・できることをどのように使うかどのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか。(学びに向かう力・人間性等) を意識した授業展開やその研究	B	今後教育改革を進めていくうえでの課題である。	B	
	AL や ICT 機器を活用し、主体的・対話的で深い学びに繋がる指導方法を取り入れ生徒の能力を引き出す工夫。	AL や ICT 機器を積極的に活用し、双方向を意識した授業に取り組み、授業内容を深め、生徒の学習意欲を向上させる。	A	ICT 環境の整備とともに、各教員の取り組みも積極的になってきているので、さらに進めていきたい。	A	
	授業・部活動・行事・家庭学習など生活のリズムを習得させ、逞しい心身を育てる。	生活時間帯のコントロール力を身につけさせ、時間を意識した、けじめある生活を心掛けさせる。	A	朝読書や授業の開始時間を守れない生徒が見られる。教員の時間を守る気持ちも必要。	A	
	学級活動・部活動や行事の活性化を進め、協働して目標達成を目指す強い心を養う。	集団の一員としての責任感を育てると共に、主体性を生かして仲間と協働して作り上げる達成感を養い成長へ結びつける。	A	部活動への加入率は3学年で85%と高く、取り組みも活発である。学級活動の活性化が今後の課題である。	A	
	計画を立てて資格取得に励み、挑戦意欲、物事をやり抜く力や自己を鍛える。	進路決定の大きな要因となる資格取得においては、生徒に合った目標を立てさせ、達成に向かう主体性・計画性・忍耐力等を養う助言・指導をする。	A	英検・漢検の全員受験を行い、資格取得を進めている。さらに上の取得級を目指す指導に持っていきたい。	A	
	「朝読書」「マナトレ」「2P ノート」に取り組む中で、自学自習力や考える力を深める	統一した指導を心掛け、基礎学力の定着だけでなく、学習習慣や自学自習力を養う手助けをする。	B	多くの生徒は積極的に取り組んでいるが、徹底はできていない。生徒一人ひとりの意識付けが今後の課題である。	B	
② 一人ひとりを大切に して、夢や希望を育 み個性を伸ばす。 (生徒の思いに寄り 添い、充実した学校 生活を支え、個性を 生かした進路実現に 努める。	適性や希望を最大限生かせる進路実現に向けて面談を繰り返し、生徒理解を深める。	決められた面接のみならず、生徒の変化を捉え、時機を得た声掛け、心掛けをし、生徒の希望や適性を生かした生活指導や進路選択に寄り添う。	A	6月11月の面接月間と日常の指導を丁寧に行っていくことが今後も大切である。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学するにしても、研究分野もあれば技術専門の分野もある。また、就職して技術を身につけてということもある。進路指導に当たってはきめ細かな指導をこれからもお願ひしたい。 ・「e-ポートフォリオ」の導入を検討しているようであるが、是非、時宜にあった対応をお願ひする。 ・生徒を孤立させないよう生徒の変化を注視しているということであるが、生徒間のトラブルにより転退学に至るケースには保護者が関係している場合も多いと聞く。大変でしょうが、是非、生徒の将来を見据えてご努力をお願ひする。
	仲間との連帯感や達成感が得られるよう学校行事・学級活動や部活動等の充実・工夫を深める。	自立した集団の一員となるよう、活動や行事の意義を理解させ、主体的行動を生み出す指導を心掛ける。	A	リーダーのもとで全体を引っ張っていく集団を作ることが理想である。リーダーの育成に取り組むたい。	A	
	生徒が確かに成長した実感を持たせる指導に徹する。	努力していることや頑張ったことは些細な事でも認め、評価してしていることを伝え、更なる行動や活動に繋がる指導を心掛ける。	A	褒めて伸ばすことを心掛けている。	A	
	集団の中で生徒同志が望ましい人間関係を築く手助けをする。(孤立させない)	生徒の変化を見逃さないために速めの対応、速めの声掛けを心掛け、授業時や昼食時等の生徒の動きや様子を把握し、学級内や部活等での指導に生かす。	A	友人関係によるトラブルにはすぐに対応している。	A	
	大学進学者の増加を目指し、満足度の高い進学補習に取り組む	生徒の希望が達成できるよう目的意識を持ち、難度の高い学力の定着を図る。	B	行ける大学に進学すればよいといった考えの生徒が少なくない中、キャリア教育が必要である。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

③ 礼節を重んじ、明るく 生き抜くための逞し さを伸ばす。 (スリーマナーアップ の実現に努めると共 に、困難に対しても 向き合うことの出来る 強い心を育てる。)	規範意識の確立を図り、積極的な生徒 指導に励む。	生徒の問題行動や不登校の予防的対応、また発生後の対処 を的確に行い、社会の一員として自らの行動を選択し、実 行し、責任が取れる生徒を育てる。	A	特別指導が昨年度より若干増えたことが反省点であ る。改めて高校生としてのルールを呼びかける必要が ある。	A	・特別指導については、本年度やや増加したと のことであるが、引き続き、穏やかで落ち着 いた学校作りに努力していただきたい。 ・本年度は、NET 依存度テストが実施され、依 存度の高い生徒には指導を行っていると言 う。現代的問題であり、対処方法も難しいと 思うが、全力を尽くしてもらいたい。 ・学校でのスマートフォンの取扱いについ ては、高校生は学校に入ったら電源を切りカ バンに入れる取り扱いと聞く。保護者とし ては登下校時の安全のため持たせたいとい う意見もある。学校として十分論議され適 切な対応をお願いする ・本校の自転車マナーは優秀だと聞いてい るが、自転車通学で多額の賠償責任を負う 事例もある。保険加入の徹底を期待する。
		生活のルールを生徒・教員・家庭が共有し、信頼関係を築 く。また教員自らも社会や職場のルールを厳守する。				
	マナーの向上を図る。(通学時、授業 時、校内)	校内外において挨拶や適切な対応のできる生徒、また品位 ある服装や立ち居振る舞いを心掛けることの出来る生徒 の育成。	A	挨拶できる生徒も多い一方、適切なふるまいのできな い生徒もいるため地道な声掛けが必要である。ネット依 存度テストを導入し、全体への指導から、生徒一人一 人への指導を始めたが、家庭との連携が不可欠であ る。		
		ネット依存度テスト結果を基にした生活改善指導と共に、 SNS や LINE など、情報伝達方法のマナー指導の徹底。				
	授業規律を整え落ち着いた、けじめあ る学びの環境を作る。	授業規律を整え、落ち着いた、けじめある学びの環境を整 えるために、チャイムで始まる授業、机上や身の回りの整 理整頓、授業開始・終了の挨拶などに意識的に取り組む。	B	授業開始がルーズなときも見られたので、教員の姿勢 を再確認したい。	B	
清掃活動や整理整頓から、物を大切に する心、感謝の心、社会奉仕の心を育 てる。	清掃活動やボランティア活動を通して、社会に奉仕する心 や、物を大切にすることを育てる。	A	ボランティア活動や、掃除活動が上手に機能し、校内 は清潔感を維持できている。	A		
多様性を受け止め、協調性やコミュニ ケーション力豊かな生徒を育てる。	多様な仲間の考えや立場を理解し、他者を受け入れる心を 育てる。	A	コミュニケーション能力を育てる試みをどう展開するか がこれからの課題である。	A		
④ 生徒の能力と適性が 生かされる進路実現	夢や希望を持った進路実現を目指す ために、進路に関わる最新の知識や情 報を、生徒や家庭と共に共有できるよ う教員自らも積極的に学び研究する 姿勢を持つ。	3年間の進路指導の流れを理解、熟知し、生徒の個性や 適性を生かした進路指導を考える。	A	進路意識を持たせる試みを、進路部や学年が行ってい る。それが生徒一人ひとりの目標設定につながる具体 的な指導が大切である。	A	・本年度は進学率がやや下がったとのこと、要 因を分析され、適切な対応をお願いする。 ・経済的に苦しい家庭もあると聞いている。進 路選択に当たり、進学に係る費用や奨学金の 取得方法等について、きめ細かな説明や情 報提供を行い、保護者はもちろん、生徒にも十 分理解させる機会を持たせていただきたい。 ・本年度も、文部科学省の新学習指導要領等 の動向を勘案しながら、適切な進路指導を心 掛けているとのことであるが、是非、時宜にあ った対応をお願いする。 ・高大連携の中で、保育士希望の生徒に静岡福祉 大学を進めているとのことであるが、是非、有 機的な連携を期待する。
		早い時期から外部の進路説明会やオープンキャンパス等 への参加を促し、進路意識を育て、目標を持った学校生 活を送らせる。				
		新入試においては各種検定の取得は進路決定に至る大切 な要因となるため、生徒に合った目標を立てさせ主体的 に取り組ませる。				
	第1学年は生涯計画やキャリア教育 のもと、安易な進路に走らず、適性 や希望が最大限生かせる進路実現を 目指し、計画的な取り組みを促す。	生徒・保護者との信頼関係を築き、3年間の進路指導の 流れを理解し、生徒の個性や適性を生かした進路指導に 繋げる。	B	3年間の進路の流れを個々の生徒がイメージできる ところまで到達するのは難しいが、そのため の手段を検討する必要がある。	B	
	第2学年は外部の進路説明会やオー プンキャンパス等へ親子での参加を 促し進路目標を明確化させ、実現に 向けた指導をする。	生徒・保護者・教員それぞれが積極的に情報を集めると 共に、志望校決定に向けた具体的な学習方法の取 組みを指導する。	A	教員の情報収集を活発に行うことで、生徒・保護者 への働き掛けも強くなっていると考える。早い 段階からの進路指導に重点を置き取り組んできた。	A	
第3学年は目標達成へ、最大限の能 力を発揮させ、進路実現・自己実現 を図る。	面接を利用し、十分な話し合いを繰り返し、親子共々納 得できる進路決定を目指す。	B	進学は99%、就職は100%決定している ので、進路決定率は高いが、いわゆるレ ベルの高い大学への進学は今後の課題 である。	B		
「大学入学共通テスト」や「学びの基 礎診断テスト」に対応できる体制づく り	新テストに対応できる教科横断型の学びや判断力・応 用力・表現力を養う新たな授業展開の工夫。	A	新テストの内容が依然明らかになっていない ため、取り組みは様子見段階であるが、 「大学入学共通テスト」に向けての準備 は進めている。	A		

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

⑤ 授業力を高め、教育の質の向上に努める。	校内外の研修会・研究授業・公開授業に積極的に取り組み、全教員が研修を積み、授業力、学校力を向上させる。	校内での研究授業・公開授業や外部の研修会に積極的に参加し、自己研修に積極的に励み、指導方法や授業形態の工夫を図り、授業の質の向上に努める。	A	外部の研修会に積極的に参加している教員もいるが、限られた予算でやりくりしている現状である。	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートは主観的と言われるが、比較対象が多くなると客観的な状況が見えると聞く。昨年度から授業評価についてマークシート方式からパソコン入力方式に変更され、集計も容易になった。授業改善等により一層役立ててもらいたい。 アクティブラーニングや ICT を活用した授業への対策として、先進校への視察や様々な研修への参画を促しているとのこと、引き続き積極的な対応をお願いする。 5段階評定換算表の問題も、単位取得と進級、卒業との関係も、最善の方法を求めて十分な論議をお願いする。 出欠席の状況について、普段から注視し生徒個々の状況にあった指導をしていると聞く。生徒目線の指導を是非展開してもらいたい。 	
	生徒による授業評価を真摯に受け止めると共に自己評価・外部評価を生かし、改善・向上に努める。	生徒の声を真摯に受け止め、自分の授業を振り返り、授業力の向上を目指して、常に努力する。	学校の目標や学年、分掌等の目標を確認し、振り返りを行ないながら改善を加え教員としての成長に繋げる。	A	評価に対する受け止めは各自に任されている部分が多いが、その中で改善に向けて努力している。		A
		指導計画表や教科ごとの指導目標の充実に努め、進度や内容、定期テスト、評価について公平性・妥当性を図る。					
	教務内規を理解して、生徒の指導に生かし、手落ちがないよう万全を期す。	出欠席の状況や授業に臨む姿勢に気を配り、学級担任等と連絡を取り合い情報を共有し、内規に合った指導をする。	A	出欠席の状況や個人情報の管理は慎重に行っているが、気を緩めずやっていく必要はある。	A		
個人情報入力に当たっては、正確さを保つため緊張感を持って事に当たる。							
⑥ 安心安全のもと、開かれた学校づくりの推進に努める。	本校ホームページ等を利用し、保護者・卒業生・受験生の必要情報、また生徒の頑張りや活動報告などを効果的に外部に発信し、全職員で積極的広報活動を進める。	情報を提供する者、それを外部に発信する者が各自の立場で、本校の魅力を PR できるよう、広報活動においては全職員で取り組む。	A	担当教員の努力下、ホームページは年々充実してきている。外注すれば 100 万円単位の仕事をやっていることは大きな経費節減になっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 1 週間に 1 度はホームページを更新している。先生方の努力が認められる。 家庭の問題や経済の関係もあるだろうが、次年度は是非オーストラリアへのホームステイを実現してもらいたい。 本年度の地域講座は、静岡福祉大学の先生を講師としてお願いし、町内の方が参加されている。講座は盛り上がったと聞いている。今後も地域交流を深めてもらいたい。 本校は比較的積極的に PTA 活動が行われている。この状況を保って行っていただきたい。 	
	国際理解教育を進めるため、ホームステイ研修者だけでなく、あらゆる教育活動の中において、グローバルな視点に立って物を考える生徒の育成に努める。	異文化を体験できる機会を上手に捉え、多様なものの見方、考え方のできる視野の広い生徒を育成する。	A	今年度はホームステイが成立しなかったが、部活動を利用した異文化交流は顧問の努力で実現できた。	A		
	地震や災害時を含めた危機対応体制を理解し、効果的訓練から安心安全を高める。	地震や災害時だけでなく普段の生活においても、安全を意識し、施設設備や防災器具の点検を定期的に行い、事故を誘発することの無い環境づくりを心掛ける。	A	避難訓練では比較的短時間でスムーズに非難している。点検も行っている。	A		
	生涯学習・PTA 行事・地域交流などに積極的に関わり、本校の教育を身近で伝える。	PTA 活動や地域交流には積極的に関わり、保護者とのスムーズな関係を築くと共に本校の教育に対する理解を深める機会とする。	B	PTA 活動と地域交流への参加には個人差があり、もっと積極的なかわりが必要である。	B		
	小学校・中学校との関係を大切にし、信頼関係の構築に努める。	信頼性の高い学校をめざし、入学した生徒一人ひとりを大切に育て、成長させて必ず卒業させるこの思いを全職員で共有し生徒指導、教科指導に当たる。	A	中学校から良い評価もいただいているので、教員全員が意識的に取り組む姿勢を続けたい。	A		
	静岡精華幼稚園・静岡福祉大学との連携を密にして、相互の発展に繋げる。	学園間の連携を深め、職員間の交流を積極的に行ない、共存共栄を図る。	A	少しずつ広めてはいるものの、もう一つ大きな輪になっていない。来年の課題。	A		
	教育相談の充実に努め、いじめの早期発見や予防に努める。	いじめアンケートのみならず普段から生徒の様子の変化を見逃さず、早めの対応ができるよう、職員間で情報を共有する。	B	調査結果に対して適切に対処できていると考える。注意してみいく必要がある。	B		

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった